

## #05\_寧音だってもっと良い感じにできるし！～寧音のパイズリフェラ～

★…寧音

★「おじやましまーす…」

★「って寝てた？　ごめんごめん！」

★「検査とか色々あるんだもんね。お疲れだったら…すぐに帰るけど…」

★「ううん、こういう時こそ身の回りのお世話をするのが  
彼女のつとめだよっ！」

★「それに今日は…望海さん、来ていないみたいだし。ちょうどいいしね！  
ふふっ！」

★「ううん、こっちの話！　こっちの！」

★「そ・れ・よ・り・も～」

★「んふ～」

★「えへへ、これは特別なハグ。2人っきりだからできる特別なハグだよ」

★「はあ～…ずっとこういう風にぎゅーってしてあげたかったんだあ。えへへ♪」

★「ほら、この前は望海さんがあなたを気持ちよくしたでしょ？」

★「だから今日は寧音が気持ちよくしてあげようかなーって。  
ほら、寧音こそが本物の彼女な訳だし？」

★「…いいよね？」

★「うん、ということだから！　それで決定！」

★「今日はやりたいこともあったしね～。

疲れたあなたを癒やす、とっておきのやつ！」

★「ほらほら、この前望海さんがあなたのおちんちんを舐めたでしょう？

寧音もあれをやってあげようかな～って思ってね！」

★「でもねでもね！　ただ同じことをするわけじゃないんだよ？

寧音だってもっと良い感じにできるし！」

★「こんな風にすれば…ね？」

- ★ 「えへへ…こうして裸を見せるのは…初めてだったかな？」
- ★ 「ううん、いいんだよ。寧音はあなたの彼女さんなんだから…  
これくらい、全然恥ずかしくないもん♡」
- ★ 「むしろ…ずっと見てほしいって言うか…なんて…えへへ」
- ★ 「って、もうおちんちん大きくなってるし！ ふふ！ 嬉しいなあ」
- ★ 「そ、それじゃあ早速…ね？」
- ★ 「うふふ♡ 寧音ね、いろいろと考えてみたんだ～」
- ★ 「それでね…望海さんを超えるには、これを使えばいいかなって思って」
- ★ 「そう…おっぱい♡ 大きさと柔らかさには結構自信があるの」
- ★ 「そういうことだから、これであなたのおちんちんを  
サンドイッチしてあげようと思って」
- ★ 「えへへ…いいよね？」
- ★ 「じゃあ、いくよ～♡」
- ★ 「ふう…ふう…こうして上下に動かして…」
- ★ 「ふふ、どう？ 柔らかいのに包まれて、気持ちいいでしょう？」
- ★ 「あなたを気持ちよくするためにいっぱい調べて、練習してきたんだから♡」
- ★ 「ふふ…おっぱいすりすりされて…気持ちい～ね～♡」
- ★ 「すりすり～…すりすり～…  
寧音のおっぱいがあなたのおちんちんを食べちゃってるよ～？」
- ★ 「ふう…ふう…すりすり～ぱんぱん♡ すりすり、しゅるる～♡  
気持ちいい～気持ちい～♡」
- ★ 「ふう…ふう…おっぱいに包まれて、おちんちん…幸せそうだねえ。  
寧音も、あなたを幸せにできてとっても嬉しいよ…えへへ♡」
- ★ 「んつ…ふう、ふう♡ はあ、ふう…気持ちいい？  
んんつ、はあ♡ はあ♡ ふう♡」
- ★ 「ふふ、まだまだ気持ちよくする方法、考てるからね～」
- ★ 「そういうわけで…」
- ★ 「んっ…れる、れ～…んふう、れ～…」
- ★ 「えへへ、おちんちんが、よだれでテカテカになっちゃったねえ～」

- ★ 「これで～おっぱいを動かしたら」
- ★ 「ふふ…よだれで滑って、すごい気持ちいいでしょ？」
- ★ 「ふう、んふつ、はあ、はあ、ふう、ふつ…んん、はあ、えへへ♡  
気持ちよさそうな顔」
- ★ 「ふう…ふう…えへへ…どろどろになったおちんちんをおっぱいで…」
- ★ 「ぎゅ～～～～っ♡ 気持ちいいねえ♡」
- ★ 「でもまだまだあるからね～！　ここからはお口で～…はあむ」
- ★ 「んぐっ…！　んちゅつ、はふう…ふうつ、んじゅつ、じゅぼ…じゅぞぞ…  
じゅりゅ、じゅぞぞ…んじゅ、じゅぼ、じゅぼつ…んふつ…  
んじゅぼぼぼつ！」
- ★ 「じゅりゅつ…んつ…ふうつ！　んじゅりゅ…じゅりゅりゅじゅぞぞ…  
んじゅ、んふつ、んんつ…ふうつ♡  
んちゅぶぶ…ふあつ…じゅりゅ…じゅりゅりゅ…！」
- ★ 「はふつ…んつ…んふうつ…んじゅりゅつ…んちゅつ…じゅりゅ…  
ぶあつ…ちゅうつ…んちゅ…♡　じゅぼつ♡　じゅぼつ♡  
じゅぼぼつ♡　んじゅううつ♡」
- ★ 「んふつ…ふう…えへへ…あなたのおちんちん…すっごく熱い…」
- ★ 「こうして胸の間に挟んで舐めていると、  
あなたと1つになった気がしてすっごく嬉しい」
- ★ 「もちろん…本当の意味で1つになる方法は…別に、あるけれど…」
- ★ 「それは望海さんとの勝負に決着がついてから…ね？」
- ★ 「寧音はそういところ結構しっかりしてるんだから～」
- ★ 「だから…今は…おっぱいとお口で気持ちよくするからね♡」
- ★ 「いくよ～？」
- ★ 「んふつ…！　んちゅつ…じゅぼ…じゅぞぞ…んふつ♡  
んちゅ…んむつ…んじゅつ、じゅりゅ…じゅりゅりゅ…」

- ★ 「んんつ♡ んふつ…じゅ、じゅりゅりゅ…んちゅ…んふうつ…  
ふあつ…ふう、はあ…はあ…んじゅりゅりゅ…じゅりゅ…  
んちゅつむちゅぶああつ…」
- ★ 「んっちゅ！ んっちゅ！ んふふつ！  
んじゅ…すりすり…すりすり…はあ…はあ…はあ…  
本当にあなたのおちんちん…熱くて素敵♡」
- ★ 「んじゅ…んちゅりゅりゅ…じゅぼ…ぷはあ…んふうつ…なって…  
なってえ…たくさん気持ちよく…なってっ♡」
- ★ 「柔らかおっぱいで包まれて…  
おちんちんからたくさんお汁を出してね♡  
んじゅりゅ…じゅりゅ…じゅりゅりゅ…んふつ…はあつ…！  
んふつ、じゅりゅ…じゅりゅりゅりゅ…！」
- ★ 「ふう…はあ…はあ…んちゅつ…ちゅううつ…ちゅりゅつ！  
ちゅつ！ ♡」
- ★ 「ふう…ふう…えへへ、あなたのおちんちん…  
ビクンビクンって寧音のおっぱいの中で震てるよ？」
- ★ 「えへへ、そろそろ…ぴゅるぴゅる～ってしたいのかな？」
- ★ 「いいよお…寧音のおっぱいにびゅりゅびゅりゅ～って出しちゃおう♡」
- ★ 「寧音もお…あなたが最高に気持ちよくなれるよう頑張るからねっ！」
- ★ 「ぶじゅつ…じゅりゅりゅ…んじゅつ…じゅつ！ ジュボツ…ジュボツ！  
じゅりゅりゅりゅりゅ…！」
- ★ 「んふつ…出して…出して…出してえつ！  
熱いドロドロ精子を、寧音のおっぱいに…お口に…  
たくさん出してえつ！」
- ★ 「んじゅつ…んふつ…じゅぼつ…じゅちゅ…んじゅつ！  
じゅりゅりゅりゅ…！ んぱはつ…んふつ…」

★ 「はあっ…大きく…大きくなってきたねえ…  
もう発射準備寸前って感じだねえっ…！  
んじゅりゅ…じゅりゅ…んふつ…じゅりゅりゅう！」

★ 「ほら、ほら、ほら、ほら♡ イキそう？ イキそう？  
イク、イク、イク、イク♡」

★ 「ほら、らそう？ らそう！  
あなたの気持ちいい汁と、寧音のよだれでじゅくじゅくになった  
おっぱいに…出そう！」

★ 「ほら、気持ちいいのが高まってえ…イク♡ イク♡ イク♡ イク♡」  
★ 「ほら、3…2…1…♡」

★ 「ああっ！ 出た…出たあっ！  
びゅるびゅるってえ…熱いのが…んんっ♡」

★ 「んふつ…んつぐつ…んじゅつんぷふつ…んんむつ…んんふうう…♡」  
★ 「はふう…あんつ…んぐつ…んあつ…はあ…はあ…ふうつ…♡」  
★ 「ふうつ…んつ、ぐつ…ぐつ…ぐつ…ぶはあ…」

★ 「えへへ…あなたの精子…飲んでみたかったから」  
★ 「えへへ…すっごく濃くて…あなたの匂いが体中に広がる感じ…♡  
おいし…♡」

★ 「ありがとね。寧音のおっぱいでイッてくれて…」  
★ 「あなたが気持ちよくなってくれて、とっても嬉しい♡」

★ 「またおっぱいでしてほしくなったら、いつでも言ってくれていいからね」  
★ 「だって寧音は、あなたの彼女さんだもん。いつだって、応えるからね♡」